



株式会社 UACJ

2025 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会

2024 年 8 月 6 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ		
[企業 ID]	5741		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会		
[決算期]	2025 年度 第 1 四半期		
[日程]	2024 年 8 月 6 日		
[ページ数]	35		
[時間]	16:00 – 17:01 (合計：61 分、登壇：35 分、質疑応答：26 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	83		
[登壇者]	5 名		
	代表取締役 社長執行役員	田中 信二 (以下、田中)	
	取締役 副社長執行役員	川島 輝夫 (以下、川島)	
	取締役 常務執行役員	隈元 穰治 (以下、隈元)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員 財務本部長

岡田 浩三（以下、岡田）

財務本部 IR 部長

上田 薫（以下、上田）

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

UBS 証券

五老 晴信

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

野村証券

松本 裕司

大和証券

尾崎 慎一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2024 年度第 1 四半期決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございました。

本日のプレゼンテーションは、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方はお手数ですがホームページをご覧ください。なお、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がございますので、ご注意ください。

では、本日の当社出席者をご紹介します。

代表取締役社長執行役員、田中信二です。

田中：田中でございます。よろしくお願いいたします。

上田：取締役副社長執行役員、川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしくお願いいたします。

上田：取締役常務執行役員、隈元穰治です。

隈元：隈元でございます。よろしくお願いいたします。

上田：執行役員財務本部長、岡田浩三です。

岡田：岡田でございます。よろしくお願いいたします。

上田：私は本日司会を務めます財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いたしました 2024 年度第 1 四半期業績につきまして、財務本部長の岡田よりご説明をさせていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。岡田本部長よろしくお願いいたします。

岡田：それでは決算説明会資料に基づきまして説明させていただきます。右下にページ数が記載されております。それをベースに説明を進めさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



発表のポイント

- 2024年度1Qの事業利益*1は**168億円(前年同期比 +58億円)**
- 2024年度通期業績予想を**上方修正し、年間配当の計画を増額**

■ 2024年度1Q 事業利益 168億円(前年同期比 +58億円)

1

- ✓ 国内: 2023年度下期からの価格改定効果と、各分野における順調な販売によって収益を確保
- ✓ 海外: TAA*2 缶材需要の好調を取り込み、増収増益
UATH*3 北米缶材需要の拡大に対応する出荷および輸出先エリアの需要復調で増収増益

■ 2024年度通期業績予想 事業利益 455億円(前期比 +21億円、前回予想比 +20億円)

2

- ✓ 北米における缶材の需要拡大に応じた出荷により、UATHで増収増益
- ✓ 業績の好調な推移を見通し、事業利益は前期比+21億円の増益
- ✓ 最終利益は前期比+66億円の205億円とし、年間配当を前期から**50円/株増額の140円/株に変更**

*1 事業利益 : 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの

© UACJ Corporation. All rights reserved.

*2 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.

*3 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.

1

1 ページ、本日の発表のポイントになります。

まず一つ目、2024 年度 1 クォーターの事業利益は 168 億円、前年同期比プラス 58 億円の結果でございました。二つ目、2024 年度通期業績予想を上方修正し、年間配当の計画を増額いたします。

それでは 1 クォーターの実績の内容のポイントです。一つ目、国内ですが、2023 年度下期からの価格改定効果と、各分野における順調な販売によって収益を確保いたしました。海外につきましては TAA にて缶材需要の好調を取り込み、増収増益。UATH では北米缶材需要の拡大に対応する出荷および輸出先エリアの需要復調で増収増益です。

二つ目、2024 年度通期業績予想の事業利益は 455 億円で、前期比プラス 21 億円の見通しでございます。北米における缶材の需要拡大に応じた出荷により、UATH での増収増益を計画しております。業績の好調な推移を見通し、事業利益を前期比 21 億円の増益という計画でございます。

最後に最終利益は前期比プラス 66 億円の 205 億円とし、年間配当を前期から 1 株当たり 50 円増額の 140 円に変更いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



目次

- 1 | 2024年度 第1四半期業績
- 2 | 2024年度 業績予想修正
- 3 | 企業価値の向上に向けた取り組み
- 4 | ご参考

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

それでは、ご覧の通りの内容で本日説明をさせていただきます。

1. 業績 業績 サマリー

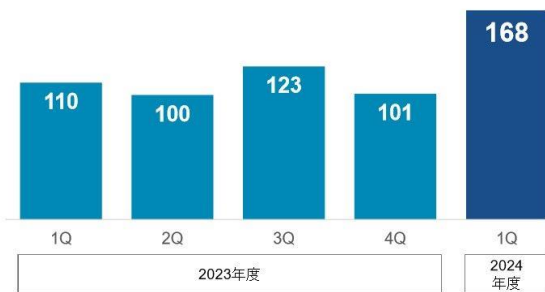
【第1四半期の事業環境】

1. 海外 TAA : 缶材需要の復調により販売拡大
UATH: 北米および他地域への販売好調
2. 国内 品種構成の好転
缶材 : 缶材の需要期による販売増加
厚板 : 流通在庫の適正化による一時的な需要増加

【経済環境】

1. 為替損益 : 円安の影響
2. 製造コスト : 地金価格の影響

【事業利益(億円) 進捗】



© UACJ Corporation. All rights reserved.

【地金価格/為替の変動】



4

第1四半期の業績結果、サマリーです。

第1四半期の事業環境では、海外 TAA、缶材需要の復調により販売が拡大しました。UATH、北米および他地域への販売が好調でありました。国内につきましては品種構成の好転が要因です。缶材

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



5

の需要期による販売の増加、また厚板につきましては流通在庫の適正化により一時的な需要が増加をいたしました。

右側、経済環境といたしましては、為替の損益、円安の影響による損益の改善、それから地金価格の影響で製造コストのプラス要因が出ているという内容でございます。

左下でございますが、1クォーター168億円の事業利益ということで、昨年度1クォーターからの推移を示しております。右下になりますけれども、LMEの棒グラフ2,519ドルが1クォーターの実績平均値になります。為替につきましては156円という実績でございます。

1. 業績

第1四半期 業績

(単位: 億円)	2023年度 1Q (A)	2024年度 1Q (B)	増減 (B) - (A)
売上収益	2,111	2,476	365
事業利益	110	168	58
棚卸資産影響等	△ 28	51	79
営業利益	82	219	137
親会社の所有者に帰属する当期利益	29	147	117
1株あたり当期利益 (円/株)	61	304	243
(参考) 事業利益をベースとした 親会社の所有者に帰属する当期利益	52	104	52
(参考) 事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	108	215	107
Adjusted EBITDA ^{*1}	200	262	62

*1 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響等

© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

5 ページ、そういった環境を踏まえまして業績です。

売上収益は 2,476 億円、前年同期に比べまして 365 億円の増収になりました。事業利益につきましては 168 億ということで、前年同期比で 58 億円の増益。棚卸資産影響につきましては 51 億円となり、前年同期比 79 億円の好転という結果でございます。

営業利益につきましては 219 億円、前年同期比 137 億円の増益。最終利益、当期利益につきましては 147 億円、前年同期比 117 億円の増益という結果ございました。

売上 365 億円増収の主な要因は、地金価格の上昇で約 45 億円が含まれます。また販売数量が増加したことにより、約 180 億円の増収、さらに外貨換算の影響によりまして約 140 億円の売上というのが主な 1 クォーターの状況になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2023年度 1Q (A)	2024年度 1Q (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材 ^{*1}	187	208	21
箔 地	11	11	0
I T 材	1	2	1
自動車材	33	35	2
厚 板	7	10	3
その他一般材	40	48	8
合 計	280 国内市場向け 116 海外市場向け 164	315 国内市場向け 130 海外市場向け 185	35 国内市場向け 14 海外市場向け 21

© UACJ Corporation. All rights reserved. *1 内部取引控除後の数量

6

続きまして 6 ページ、アルミ板の品種別の売上数量です。

本年度 1 クォーターの実績は 31 万 5,000 トンで、前年同期比 3 万 5,000 トンの増販でございます。

大きく伸長しているのは缶材です。TAA、UATH の北米および他地域の販売が好調であったという結果でございます。

あと下から二つ目、厚板ですけれども、流通在庫の適正化により一時的に需要が増加したというような状況でございます。

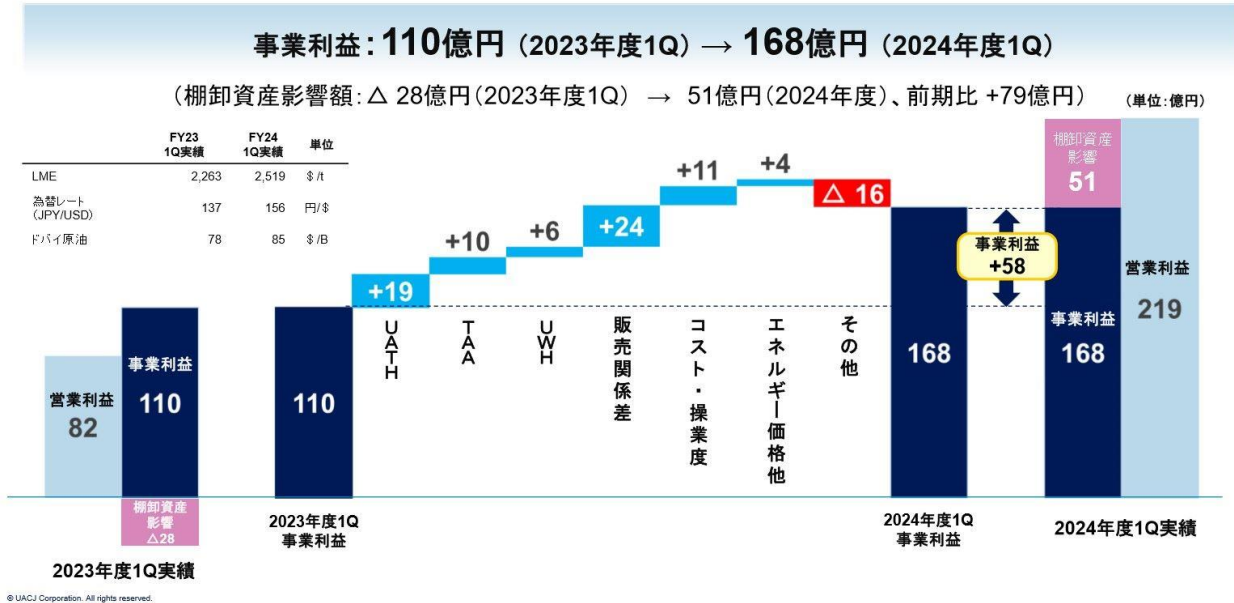
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 業績

事業利益分析 (2023年度1Q → 2024年度1Q)



7

7 ページ、事業利益の分析のウォーターフォールになります。

昨年度の事業利益が 110 億円で、今回 2024 年度の 1 クォーターの事業利益が 168 億円、その内訳のウォーターフォールになってございます。

まず左側から UATH、TAA につきましては、販売数量の増加の効果で両社足して 29 億円の増加。UWH はプラス 6 億円ですけれども、コストダウンを含めた効果が昨年下半年からの継続で利益を増加させてございます。販売関係差、コスト・操業度差につきましては、販売数量が増加したことにより操業度の改善、コスト改善等々で 35 億円の改善ができました。

その他、マイナス 16 億円とございますが、ここにつきましては棚卸未実現の利益調整の結果でございます。最終的に 168 億円の事業利益という結果で終わっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 業績

連結貸借対照表

北米缶材需要の取り込みによる最終利益の獲得で、株主資本が充実

連結貸借対照表

(単位: 億円)	24/3末 (A)	24/6末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び現金同等	402	330	△ 72
営業債権及びその他の債権	1,797	2,047	250
棚卸資産	1,879	2,117	238
その他の流動資産	234	271	37
有形固定資産	3,852	3,947	95
その他の非流動資産	980	998	18
資産合計	9,144	9,710	566
営業債務及びその他の債務	1,417	1,530	114
借入金	3,109	3,209	100
その他	1,598	1,661	63
親会社の所有者に帰属する持分合計	2,770	3,030	259
非支配持分	250	281	31
負債及び資本合計	9,144	9,710	566

資金運用表

	用途	調達
長期資金	設備投資等	99
	法人税等支払	20
	長期資金余剰	183
短期資金	運転資金増減他	323
		短期資金不足

長期資金余剰 183億円
短期資金不足 △ 323億円
フリーキャッシュフロー △ 140億円

© UACJ Corporation. All rights reserved.

8 ページ、貸借対照表です。

資産合計 9,710 億ということで、2024 年 3 月末時点から 566 億円増加してございます。主な要因といたしましては、まず全体に為替換算影響が約 300 億円の増加につながっております。また、販売数量増加に伴う運転資金の増加等の影響で、最終的に 566 億円の増加という結果になってございます。

1. 業績

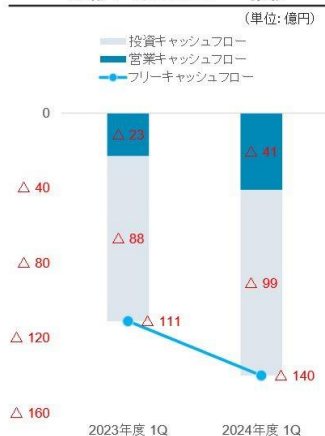
連結キャッシュ・フロー計算書

2024年度のD/Eレシオ目標水準 1.0倍を維持

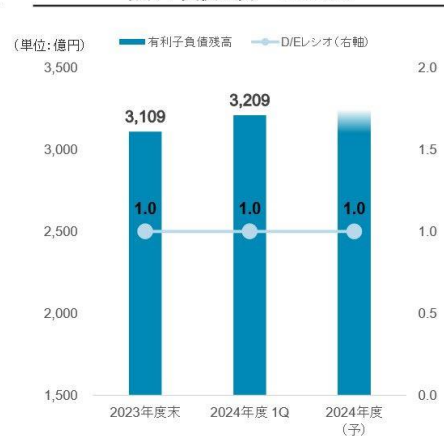
2024年度 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)	
税引前利益	208
減価償却費	94
債権債務増減他	△ 343
営業キャッシュフロー計	△ 41
設備投資 他	△ 99
フリーキャッシュフロー	△ 140
ファイナンススキーム・配当他	22
現預金増減(△は増加)	72
外貨建て借入金換算差(△は増加)	△ 55
有利子負債(△は増加)	△ 100

連結キャッシュフロー 推移



有利子負債残高・D/Eレシオ*



© UACJ Corporation. All rights reserved.

* D/Eレシオは劣後ローンの資本性を考慮

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



9 ページ、連結のキャッシュ・フローです。

左側に記載しておりますが、税引前利益で 208 億円、減価償却費 94 億円で、合計 302 億円のキャッシュを生んでございます。そこから債権債務増減他で 343 億円を使いまして、営業キャッシュ・フローとしてはマイナスの 41 億円、そこから 99 億円で設備投資を行いまして、フリーキャッシュ・フローとしましては 140 億円のマイナスという結果でございます。

それに向けてファイナンススキーム・配当、現預金の取り崩し等で 22 億円、キャッシュを 72 億円捻出しましたが、最終的には外貨建ての借入金の円換算で 55 億円が生じ、有利子負債 100 億円の増加という結果でございました。

右側の棒グラフのところで、有利子負債の残高の推移を示してございます。真ん中が 2024 年度の 1 クォーターの結果でございます。D/E レシオにつきましては、自己資本が 3 月末で 2,770 億円でしたが、そこから 1 クォーターで出た利益剰余金 125 億円、為替換算の調整勘定科目で 136 億円増加いたしまして、自己資本としましては 3,030 億円となりました。D/E レシオにつきましては 1 倍を切る実績となりましたが、四捨五入の都合でグラフ上では 1.0 倍と表記しております。

2024 年度の最終、来年の 3 月末にも、引き続き 1 倍未満の継続ができると見ております。

1. 業績

設備投資・減価償却費

設備投資は減価償却の範囲内を堅持

(単位: 億円)		2024年度1Q 実績	2024年度 見通し	2021~23年度 実績	2024~27年度 計画
設備投資	一般投資	35	160	556	820
	戦略投資	24	205	247	780
	合計	59	365	803	1,600
減価償却費		94	365	1,018	1,600

© UACJ Corporation. All rights reserved.

10

10 ページ、設備投資・原価償却費です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



10

2024 年度 1 クォーターの設備投資の実績は、一般投資 35 億円、戦略投資 24 億円、合計 59 億円の設備投資の実績でございました。年間見通し 365 億円と計画してございますが、現時点では変化はなく、おおむね順調に推移をしてございます。

1. 業績

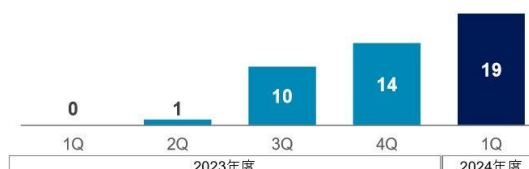
タイ(UATH)の状況

北米缶材需要の回復に応じた出荷を再開、増収増益となる

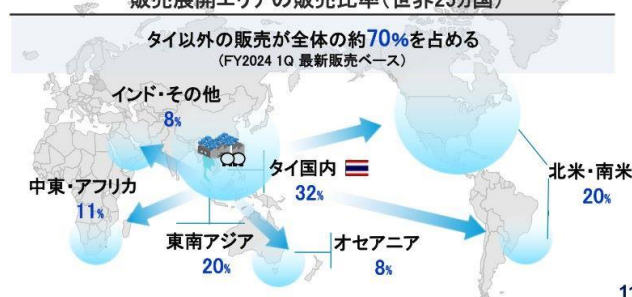
総括

- 需要** : グローバルでの缶材の需要が回復
- 販売** : **【北米向け】**
缶材需要回復に応じ、製品の出荷を再開
【ASEAN・その他地域】
- 新規顧客の開拓を進め、販売展開エリアを拡大
 - 中国材との競争に対し、安定供給と高い品質を強みに契約交渉を実施
- 損益** : 販売数量の回復で収益を確保

事業利益推移(億円)



販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



(単位: 億円)

	23年度 1Q (4~6月)	24年度 1Q (4~6月)	前年同期比
販売量(千t)*	62	72	10
売上収益	340	453	113
営業利益	△ 14	52	66
事業利益	0	19	19

*TAAへの出荷分含む
© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2023年度からの業績推移はP28をご参照ください。

11

11 ページ、タイの状況です。

北米缶材需要の回復に応じた出荷を再開いたしました。その結果、他エリアも含め販売が増したことによる増収増益となりました。総括に記載しておりますが、グローバルの缶材の需要が回復ということ、それから北米向けは先ほど申しましたが、製品出荷が再開されたということです。ASEAN、その他地域につきましても、新規顧客の開拓を進め、販売展開エリアを拡大しております。

販売数量と損益は左下の表になりますが、1 クォーターで7万2,000 トン、前年同期比1万トンの増販となっております。売上収益 453 億、前年同期比 113 億円の増益、営業利益 52 億円で前年同期比 66 億円の増益でございます。事業利益につきましては19 億円ということで、前年同期比 19 億のプラスという結果でございました。

右側の上の棒グラフがこれまでの昨年1 クォーターからの事業利益の推移を示してございます。着実に UATH の事業利益は拡大してきております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. 業績

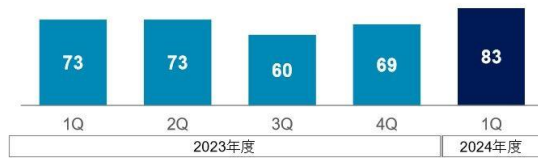
米国(TAA)の状況

缶材のサプライチェーン全体で需要が拡大、販売数量の回復が続き増収増益

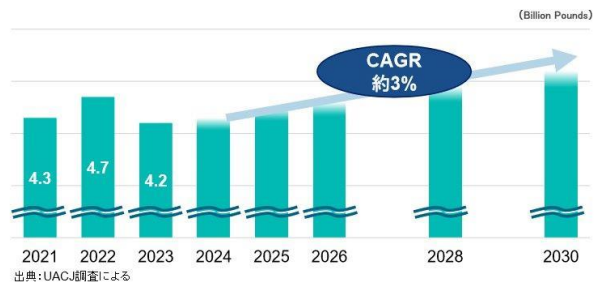
総括

- 需要 : ・長期的に北米の缶材需要の拡大傾向は変わらない
 ・足元では、サプライチェーン全体でのリสตッキング需要が生じている
- 生産 : ・高水準での生産が継続
 ・設備増強は順調に進捗
- 販売 : 前年同期比で11千トン販売量が増加

事業利益推移(億円)



米国缶材需要の推移



(単位: 億円)

	23年度 1Q (4~6月)	24年度 1Q (4~6月)	前年同期比
販売量(千t)	98	109	11
売上収益	570	713	143
営業利益	66	107	41
事業利益	73	83	10

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※2023年度からの業績推移はP28をご参照ください。

12

12 ページ、TAA の状況です。

缶材のサプライチェーン全体で需要が拡大、販売数量の回復が続き、増収増益でございました。需要につきましては、長期的な北米の缶材需要の拡大傾向は変わらず、足元ではサプライチェーン全体でのリสตッキング需要が生じております。生産は高水準で継続しており、また、設備増強につきましては、順調に進捗してございます。

販売につきましては下にございます。販売量 10 万 9,000 トン、前年同期比 1 万 1,000 トンの増販、売上収益 713 億円、前年同期比 143 億円の増益、営業利益 107 億円で前年同期比 41 億円の増益、事業利益につきましては 83 億円で前年同期比 10 億円の増益となっております。事業利益の推移につきましては右側上にごございますけれども、2024 年度 1 クォーター、83 億円ということで、事業利益もかなり伸長してきております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 業績

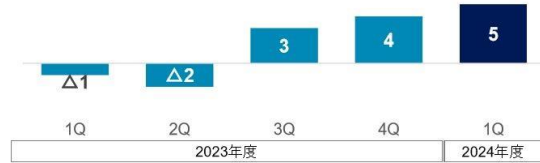
米国(UWH)の状況

2023年度下期から継続しているコストダウン施策の徹底で事業利益を確保

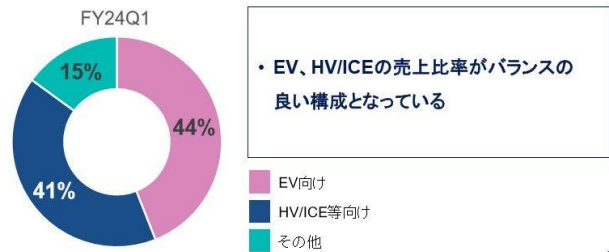
総括

- 事業** : 環境規制等により、車体の軽量化ニーズは強まる
環境 : EV市場は足元で一時的に需要が弱い、自動車市場全体の中長期的な成長には変化がないものと見通す
- 販売** : 日系OEMへの安定的な販売が継続
 「2023年度 ホンダ・ノースアメリカ・サプライヤー・アワード」で、**Quality/Delivery賞**(品質不良ゼロ・製品デリバリー遅延ゼロ)、**Value In Excellence賞**(原価低減貢献)をダブル受賞
- 損益** : 顧客との交渉にて、昨年度末に続き収益を確保
 2023年度下期からのコストダウン施策を徹底して継続

事業利益推移(億円)



売上構成比



(単位: 億円)

	23年度 1Q (4~6月)	24年度 1Q (4~6月)	前年同期比
売上収益	105	101	Δ 4
営業利益	1	4	3
事業利益	Δ 1	5	6

※2023年度からの業績推移はP28をご参照ください。

13 ページ、UWH の状況になります。

事業環境としましては、環境規制等により車体の軽量化ニーズは強まっております。EV 市場では足元で一時的に需要が弱い状況ではありますが、自動車市場全体の中長期的な成長には変化がないものと見通してございます。

販売面ですけれども、日系 OEM 向けへ安定的な販売が継続しております。「2023 年度 ホンダ・ノースアメリカ・サプライヤー・アワード」で、Quality/Delivery 賞、Value In Excellence 賞をダブルで受賞いたしました。

損益につきましては、左下にございます売上収益 101 億円、前年同期比 4 億円の減収になってございますが、営業利益は前年同期比プラス 3 億、事業利益はプラス 6 億ということで、昨年の下期からのコストダウンの施策等々を順調に進めてきており、事業利益を確保してきた結果が表れております。右上に事業利益のトレンドを示しておりますが、昨年度 3 クォーターから着実に事業利益を獲得してございます。

右下の円グラフになりますが、UWH が受注している車種の動力別に売上を分類してございます。ピンクの 44% が EV 車向けの部品関係、青色の 41% が HV/ICE 等の受注品目の売上の比率となっております。この売上の比率につきましても、バランスの良い状態になってきていると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

通期見通し サマリー

【通期事業利益見通し 概況】

事業利益 434億円 ⇒ 455億円(+21億円)
(2023年度実績)

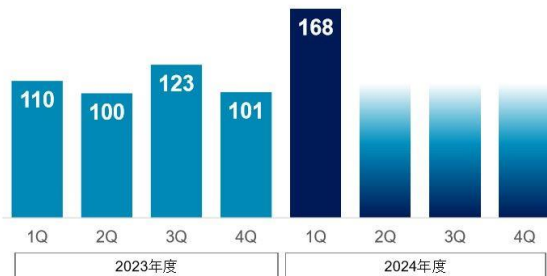
- 北米における缶材の需要拡大に応じ、UATH が増収増益
- 国内の販売価格改定効果と順調な販売が貢献

【通期最終利益見通し 概況】

最終利益 139億円 ⇒ 205億円(+66億円)
(2023年度実績)

- 事業利益の増益
- 前年度からの棚卸資産影響の好転を想定

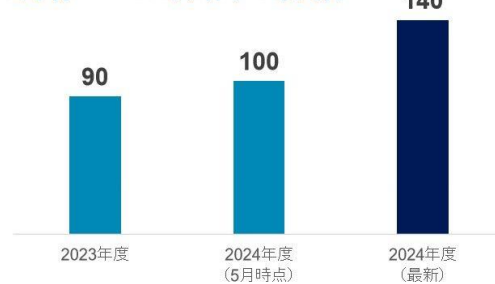
【事業利益(億円) 計画】



© UACJ Corporation. All rights reserved.

【配当予想】

90円/株 ⇒ 140円/株(+50円/株)



15

2024年度の業績予想の修正内容になります。

15 ページで通期の見通しのサマリーを記載しております。

通期の事業利益の見通し概況ですが、事業利益、昨年度 434 億円から 455 億円ということで、プラス 21 億円を計画しております。主に北米における缶材の需要拡大に応じて UATH が増収増益、また国内の販売価格改定効果と順調な販売が貢献しております。

通期の最終利益の見通し概況になります。昨年度 139 億円の実績に対しまして、今年度は 205 億円ということで、前年同期比プラス 66 億円を見込んでおります。主な要因といたしましては事業利益の増益、前年度からの棚卸資産影響の好転を想定してございます。

それに伴いまして、配当予想といたしまして右下にございますが、昨年度、1 株当たり 90 円の配当から、今年度は 1 株当たり 140 円の配当とさし、昨年度に比べまして 50 円の増配をするよう計画しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 業績修正

2024年度 通期業績見通し

(単位: 億円)	2023年度 実績(A)	最新見通し (B)	増減 (B)-(A)	2024年5月時点 見通し(C)	増減 (B)-(C)
売上収益	8,928	9,300	372	9,000	300
事業利益	434	455	21	435	20
棚卸資産影響等	△ 120	10	130	△ 20	30
営業利益	314	465	151	415	50
親会社の所有者に帰属する当期利益	139	205	66	155	50
1株あたり当期利益 (円/株)	287	425	138	321	104
(参考) 事業利益をベースとした 親会社の所有者に帰属する当期利 益	221	198	△ 23	169	29
(参考) 事業利益をベースとした 1株あたり当期利益 (円/株)	458	411	△ 47	350	61
Adjusted EBITDA	798	820	22	800	20
年間配当	90円/株	140円/株	50円/株	100円/株	40円/株

© UACJ Corporation. All rights reserved.

16

16 ページ、通期の業績見通しです。

売上収益が 9,300 億円ということで、前年同期比 372 億円の増収。事業利益につきましては 455 億ということで、前年同期比 21 億円の増益。棚卸資産の影響につきましては 10 億円ということで、前年同期比 130 億円の好転、営業利益につきましては 465 億円で前年同期比プラス 151 億円。最終利益につきましては 205 億円で、前年同期比 66 億円の計画といたしました。Adjusted EBITDA につきましては、前年同期比 22 億円増加の 820 億円を計画しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2. 業績修正

アルミ板 品種別売上数量

品 種				(単位:千トン)	
	2023年度実績 (A)	最新見通し (B)	増 減 (B) - (A)	2024年5月時点 (C)	増 減 (B) - (C)
缶 材*	791	854	63	836	18
箔 地	45	45	0	54	△ 9
I T 材	8	10	2	10	0
自動車材	142	139	△ 3	144	△ 5
厚 板	34	38	4	41	△ 3
その他一般材	175	175	0	182	△ 7
合 計	1,195 国内市場向け 475 海外市場向け 720	1,262 国内市場向け 485 海外市場向け 777	67 国内市場向け 10 海外市場向け 57	1,267 国内市場向け 502 海外市場向け 765	△ 5 国内市場向け△17 海外市場向け 12

© UACJ Corporation. All rights reserved. *1 内部取引控除後の数量

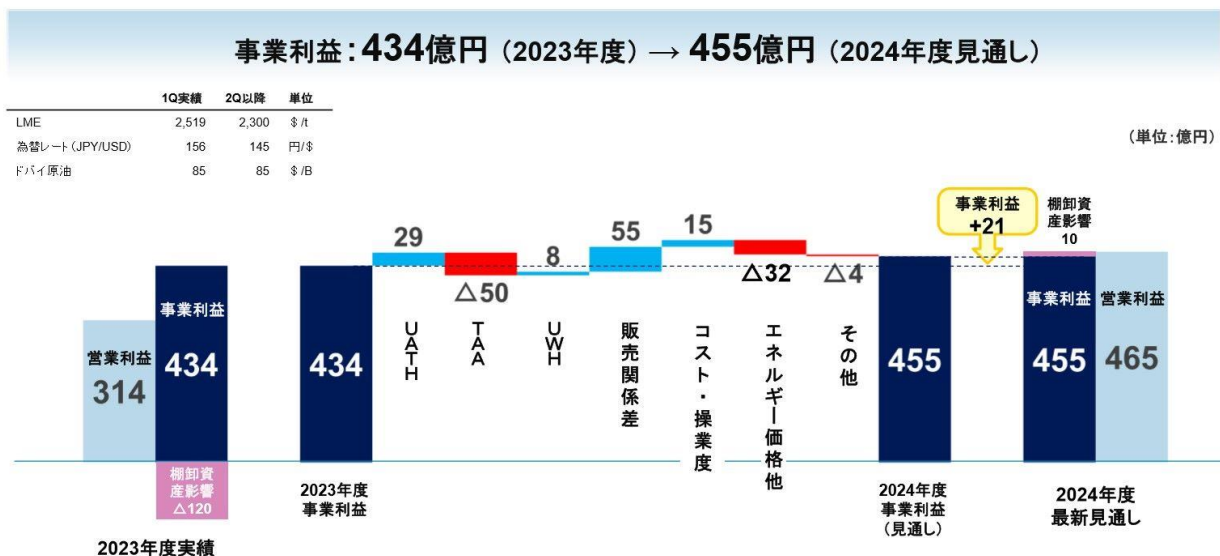
17

17 ページ、アルミ板の販売の計画です。

右側の赤枠で囲ってございますが、年間を通しまして126万2,000トン、前年同期比6万7,000トンの販売増という計画でございます。特に缶材の需要が6万3,000トンということで、大きく伸長するという計画でございます。

2. 業績修正

事業利益分析 (2023年度実績 → 最新見通し)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

18

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



その売上数量を前提といたしまして、18 ページ、事業利益の分析をしてございます。

昨年度 434 億円から、本年度 455 億円の見通しということで、まず UATH につきましては、販売量が増加をするという計画でございまして。

TAA につきましては対前年で、今年 5 月の通期見通しでもご説明させていただきましたが、2023 年度 4 クォーターにおいて一時的なお客様からの発注があり、その差約 15 億円出ております。残りの 35 億円につきましては、サーチャージ制のパススルーのタイムラグのところの影響が主な要因とみております。

UWH につきましては、継続したコストダウン効果を取り込みながら、事業利益を 8 億円と見ております。

販売関係差、コスト・操業度差につきましては、販売量が増加することにより約 70 億円の増加という見通しでございまして。エネルギー価格差につきましては、マイナス 32 億円につきましては、パススルーの時間差と単価差による影響と見ております。

最終的には、本年度の通期事業利益の見通しは、455 億円で計画いたしております。

2. 業績修正

株主還元

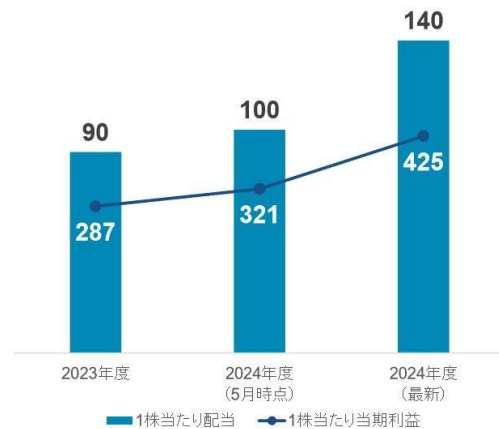
年間配当金を 140 円/株に増配

第4次中期経営計画期間 還元方針	
安定的かつ継続的な配当を目指す 配当性向 最終利益*30%以上	

	2023年度		2024年度 (5月時点)		2024年度 (最新)	
最終利益	139億円		155億円		205億円	
年間配当	90円		100円		140円	
配当性向	31.3%		31.1%		32.9%	
内訳	中間	期末	中間	期末	中間	期末
	45円	45円	50円	50円	70円	70円

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 最終利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

1株当たり配当(円)/1株当たり当期純利益(円)



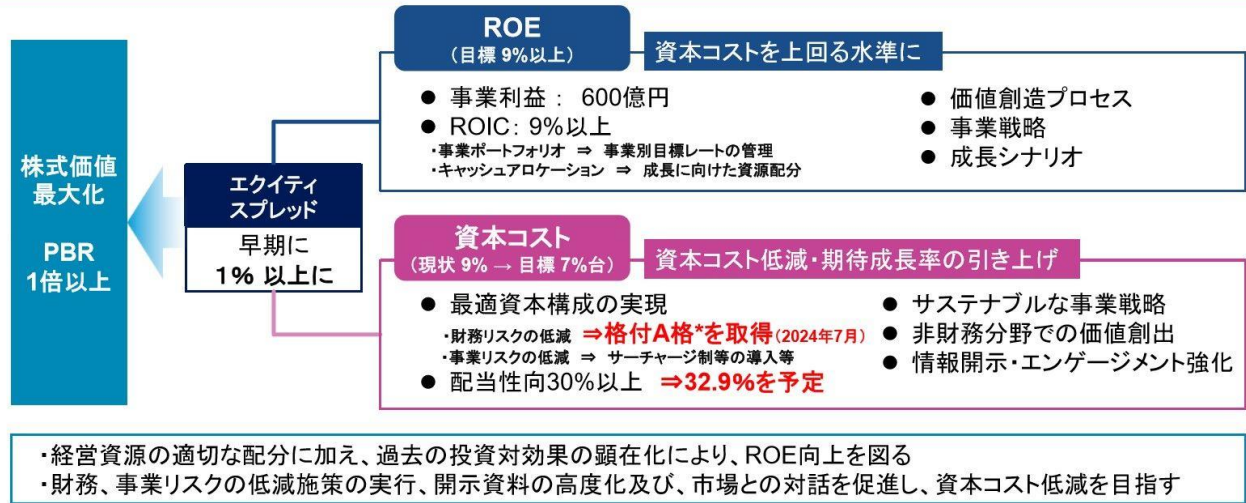
19

続きまして 19 ページ、年間配当金を 1 株当たり 140 円に増配いたします。最終利益 205 億円に年間配当 140 円、配当性向 32.9%として、増配をいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

第4次中計で盛り込んだ施策を確実に実施し、PBR1倍以上の実現へ



© UACJ Corporation. All rights reserved. *日本格付研究所の格付による

続きまして、企業価値向上に向けた取り組みです。

22 ページ、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて」ということで、5月のIR-Dayで財務からお示したスライドに、今年度の1クォーターで実績を出したところをお示しております。

資本コストのところがございますが、財務リスクの低減というところで、日本格付研究所様からA格を取得することができました。配当性向につきましては、今年度につきましては32.9%を予定しております。

経営資源の適切な配分に加え、過去の投資効果を顕在化させ、ROEを上回ってまいり、財務・事業リスクの低減施策の実行、開示資料の高度化および市場との対話を促進しながら、資本コストの低減を目指してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

「EcoEnd™」の生産体制構築を完了、GHG排出量の大幅削減に技術で貢献



東洋製罐様と共同開発した缶蓋「EcoEnd™」
現行品に比べて、温室効果ガス(GHG)の排出量を約4割削減

「EcoEnd™」2つの特長

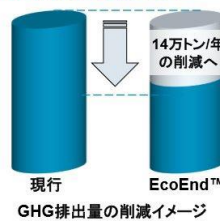
(1) アルミニウムの新たな循環フローを提案

缶蓋と缶胴は、期待される強度を達成するために、それぞれ成分調整が必要です。「EcoEnd™ (缶蓋)」は、溶解後の成分調整と製造技術を工夫し、缶蓋を缶胴の成分に近づけることで、リサイクル原料を多く活用しても従来とあり缶胴との特性の差を持たせることが可能になりました。

今後は、缶蓋にも、より多くのリサイクル原料が使用でき、新地金の使用量削減にもなるGHG排出量削減に貢献できるものと期待しています。

(2) GHG排出量を大幅に削減

リサイクル原料使用量の大幅な引き上げで、現行品と比較してGHG排出量の約4割削減を実現しました。東洋製罐様が国内で販売する飲料缶蓋がすべて「EcoEnd™」に置き換わった場合、年間約14万t削減される見込みです。



(ご参考) 2024年7月9日リリース 次世代飲料缶蓋「EcoEnd(TM)」の量産に向けて、生産体制の構築を完了 : グローバル アルミニウム ジャーナル 株式会社UACJ

© UACJ Corporation. All rights reserved. * 「EcoEnd™」1個当たりのGHG削減量および東洋製罐における現行仕様におけるSOT(ステイオンタブ)缶蓋の2019年度製造実績を基に算定

続きまして、23 ページです。2024 年 7 月 9 日に東洋製罐様と共同開発をした「EcoEnd™」のリリースをさせていただいております。

「緑豊かな青い地球を未来に継承するために」ということで、GHG 排出量削減への挑戦になります。新地金の使用量を低減した次世代の飲料缶蓋「EcoEnd™」を開発し、生産体制の構築を完了いたしました。

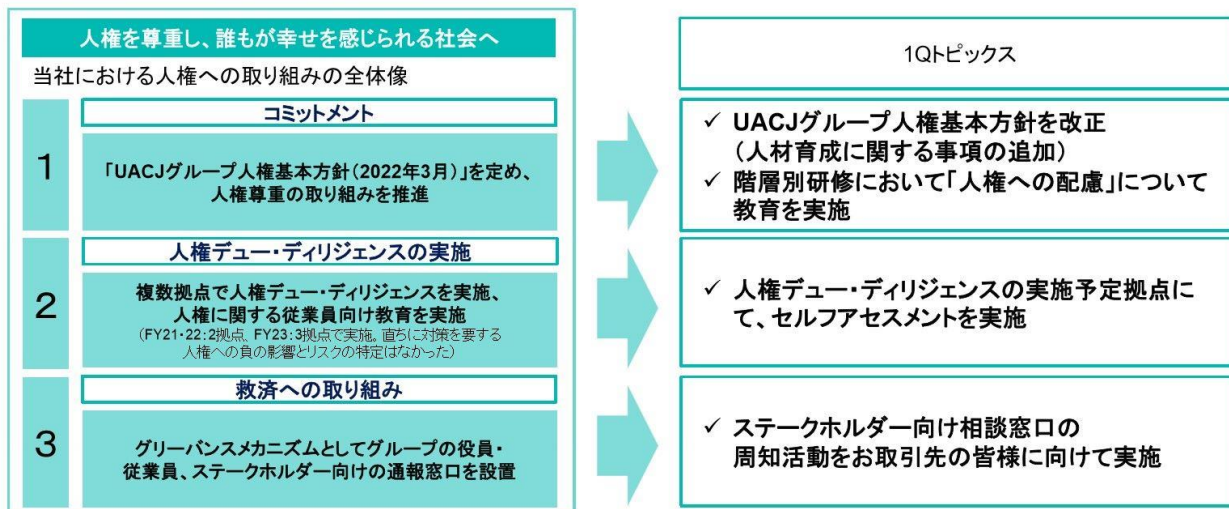
従来の缶蓋では CO₂ 排出量の多い新地金を多く使用していましたが、今回の開発では、品質を維持した上で、使用済みアルミ缶などの再生原料の使用量を増やしてまいります。新地金使用量を低減することにより、従来の蓋と比較しまして、CO₂ 排出量を約 4 割削減することができます。この製品の価値をしっかりと訴求していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



人権デュー・ディリジェンスの実施、課題への対処を継続し、社会全体の“Well-being”を目指す



© UACJ Corporation. All rights reserved.

24 ページです。豊かな調和のある社会のための人権の尊重、人権デュー・ディリジェンスの実施、課題への対処を継続し、社会全体の Well-being を目指します。国連からの人権に関する指導原則でうたわれています、企業の責任に基づいた行動、1、2、3 の取り組みについて、1 クォーターの実績を右側に掲載してございます。

まず1 番につきましては、UACJ グループ人権方針を改正、階層別研修において人権への配慮について教育を実施いたしました。2 番につきましては、人権デュー・ディリジェンスの実施予定拠点にてセルフアセスメントを実施いたしました。3 番につきましては、ステークホルダー向けの相談窓口の周知活動をお取引先の皆様に向けて実施いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

サステナビリティ説明会

2024年11月27日(水) 午前

登壇者	代表取締役 社長執行役員	田中信二
	取締役 副社長執行役員	川島輝夫
	執行役員 サステナビリティ推進本部長	成田緑
	執行役員 ビジネスサポート本部長	浦吉幸男

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※ 登壇者は調整中です。事情により変更する可能性があります

25

25 ページ、最後になりますが、今後のスケジュールになります。

11月27日、水曜日、午前にサステナビリティ説明会を開催させていただきます。登壇者は記載の通りでございます。ぜひご参加のほどよろしくお願いいたします。

ご説明は以上になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

上田 [M]：当社からのご説明は以上でございます。

これより皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社、山口様、ご質問をお願いいたします。

山口 [Q]：いつもお世話になっております。SMBC 日興証券の山口です。

15 ページ目の左下でございますが、気になるグラフがあって、第 1 クォーター非常に市場の予想を上回る強い数字だったんですが、薄くはなっておりますが、2、3、4 と、ちょっと何か落ちているように見えます。私の目が錯覚でなければ。

今回の各セグメントの事業利益、国内は分からないので、TAA とか UATH とか UWH とか、板、押出類は引いたもののベースで計算すると、第 1 クォーターの実績が 61 億円に対して、通期が 163 億円ですが、60 億円を 4 倍すると 240 億円だと思います。TAA は 225 億円です。

1 クォーターの出来は 83 億円ですが、4 倍しますととてつもなく大きい数字になると思うし、以下同文。UATH も 19 億円。ここには棚卸の影響が入ってないと思いますが、通期の計画に対してかなり好進捗だけど、その後落ちるとみている背景について、ユニットごとにご解説いただきたいのが 1 問目です。

2 問目は配当予想に絡めてなんですけど、当期利益の伸びが事業利益とか、あるいは棚卸前の伸びに比べて大きいんですが、この配当が増えた背景も含めて、当期利益の伸びが大きいところに関してご解説いただければと思います。

3 点目は出荷数量の見通しの変更のところですが、でこぼこがありますので、でこぼこを教えてください。以上 3 点です。よろしくお願いいたします。

川島 [A]：そしたら川島から、全部はなかなか難しいかもしれませんが、概略で。まず言われているように、1 クォーターが事業利益 168 億円、2 クォーター以降大体 100 億円ずつぐらいで見えています。なぜ落ちるかというところですけども、いくつか要因があります。

一つ大きいのは為替です。1 クォーターの決算は、先ほど岡田からもありましたが、会計上は 156 円で計算をしました。2 クォーター以降については 145 円で計算をしています。従って、海外利益

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



である TAA、UWH、UATH、この金額は円貨ベースに直すとその分だけというのがまずあります。

それからもう一つが、確かに地金価格は、棚卸資産影響に入ってしまうんですが、一部、スクラップ価格が、これが LME にある程度連動してきます。ディスカウント幅はあまり変わらないと見ています。LME の前提を、2 クォーター以降は 2,300 ドルで見えています。

1 クォーターは 2,500 の中頃だったので、その下がる分だけ、値差が効いてしまいます。これによって、2 クォーター以降は下がります。もっと言えば、1 クォーターが為替と地金価格の状況は少し上振れしていたと見ていただければいいと思います。

それから 1 クォーター、国内で大変品種構成が良かったです。販売数量は年間で変わらないと見ていますが、ファーストクォーターの缶材、これがよいということだけではなくて、当社が納めているお客様、その中である品種が大変好調で、国内販売の缶の販売が大変多かったです。

元々、一番の需要期は 1 クォーターでありますので 2 クォーター以降、販売数量全体は変わらないけれども、品種は少し戻るといって、つまり若干悪化するだろうということを見て、大体 168 億円だったのが 100 億円となり、年間で 455 億円の利益を見込んでいるということでもあります。

それから、次の最終利益のところでございますけれども、確かに営業利益が 50 億円、元々の予想から比べたら好転をして、最終利益も好転をしているんですけども、大体、実効税率が 3 割弱でございますので、本当であれば営業利益は 50 億円好転するので、最終利益は 40 億円ぐらいかなと見ているんですけども。

他方で、これは事業利益の下、IFRS で言うと金融費用のところに入っているんですけども、外貨建ての債権債務の換算差による損失、これが一部減っていくだろうという形で、結果として最終利益については、同じぐらいの金額、50 億好転するという形になります。

従って、最終利益は 205 が出るというふうに予想をしておりますので、配当性向につきましては、当初の 30% ということで考えておりますので、今回、100 円を 140 円に変えて、配当性向については約 33% ということで見込んでいるという状況でございます。

田中 [A]：続いてのご質問は数量変化ですかね。出荷数量変化というご質問でよろしかったですかね。

山口 [Q]：出荷数量のでこぼこが出ていますよね。缶材は伸びているけど、厚板が減っているとか。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



川島 [A]：年間ですか。

山口 [Q]：年間のところですか。前回、今回の比較の。

田中 [A]：田中から数量変化についてご説明させていただきます。17 ページをご覧くださいと、全体で年間で見通しが上がっているというのは、主に缶材が大きな変化になっております。特に缶材について言うと、国内の事情と海外の事情でそれぞれ違ってきておりまして、国内でいきますと、ある国内メーカーさんの新商品が非常に好調に売れているということがあって、特に上振れが大きくなっているというのは国内の事情です。

もう一方で海外を見ますと、これは UATH と TAA それぞれですけれども、特に米国、これが在庫調整が今年の 4 クォーターでほぼ終わって、1 クォーターで巡航速度に戻りつつあると。かつ、昨年度末の 4 クォーターの少し余裕もまだ残っていて、当初われわれが予想したよりも上振れている。それによって、UATH から北米に向けての輸出も再開しています。こういったところもあって、全体に缶材が大きく伸びたというのが足元の状況になっています。

今後、まだまだ 2 クォーター以降、この数量差、数量の変化についてはよくよくウォッチしていく必要がありますけれども、当初われわれが予定した予算並みには推移するだろうと考えております。以上でございます。

上田 [M]：ありがとうございました。次のご質問は、モルガン・スタンレー MUFG 証券株式会社、白川様、ご質問をお願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。質問 2 点お願いいたします。

1 点目がタイです。統計では 5 月、6 月からかなり輸出数量が増えていました。御社の説明資料の 29 ページを拝見いたしますと、6 月にボーンと増えていて、あまり 5 月が増えていなかったように見えまして。これ販売の中で月次のずれっていうところがあったのか教えてください。

あと先ほど北米向けのところが、在庫調整が北米で終わったので、今、巡航速度に戻ってきたと。ただ、これが続くかというところは少し分からないので見なきゃいけないという話ではあったと思いますが、缶材の需要が今どうなのか。

あとそれに対して供給側、こちら他社さんもこれからランプアップしてくるところもあたりはすると思うので、その需給関係どうなのかっていうところを教えてください。すみません、いろいろ盛り込んだんですけど、タイの月次のずれと、米国の需要のところですか。ここを教えてください。これが 1 点目になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それから2点目ですけれども、資料でいくと17ページを拝見しての質問ですが、山口さんの質問のフォローアップにもなるんですけども、でこぼこあるところのぼこのところで、箔地、厚板があるので、ここを教えてください。

あとこれも半導体製造装置向けの厚板のところ、今回の資料だと一時的な需要増加みたいなことが書かれているので、本格的な需要回復はいつ頃を今見ているのかっていうところと、何で一時的だと今思っているのかっていう、その理由も踏まえて教えてください。よろしくお願いします。

川島 [A]：川島からお答えします。当社は出荷ベースで統計を取っておりますので、その出荷が6月に大変輸出が多かったです。従って、その分量が出てきていると。その背景は、さっき田中社長からもありましたけども、元々今年の1月ぐらいには、北米においてこの1年半ぐらい続いたアルミの缶材の在庫の調整が終わったと考えています。

ご記憶あると思いますが、一時的なお客様からの需要を、2月ぐらいにもらったので、昨年3月末の決算のときにそのプラスアルファでお年玉をもらったという形で出ました。それが、実際に開けてみたら、一時的ではなくて割と強い状況が続いています。これは在庫調整というかアルミの缶材自身の需要が多分悪くないんだろうと思っています。

だから元々は需要が普通に戻ってきて、それで巡航かと考えているところに、そこに発生したプラスアルファが少し続いて、思ったよりも状況が良いのではないかと今見ているということでございます。その結果として、TAAで生産が間に合わない部分もあり、タイのほうから1クォーターにアメリカ向けの輸出をしたと。これがまだもうちょっと続くかなという見方をしております。

田中 [A]：田中ですが、今のタイのところで少し補足しておきます。29ページのところで、特に6月は突出して多いというご指摘もあったと思うんですけど、4月からもう北米向けの輸出材準備をタイで進めていました。ただし、この5月に船の手配が間に合わなくて、5月と6月分が一気に出荷された状況で、特にポンと跳ね上がった形となりました。7月以降はここは少しこなれてきますので、高いレベルで横ばいで推移してくると考えております。

川島 [A]：それから、2問目の質問で、国内での販売です。当初の見通しから比べてっていうところ、まず、箔地ですけども、ちょっとまだ箔の状況が弱い。その関係で当初の見込みよりも少し伸びないかなという見方をしております。ただし、減っているわけではなく、この数量で見ると、底を打って少しずつ戻ってきているという状況ですけども、もうちょっと時間がかかるのではないかと見通しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それから厚板の状況ですけども、半導体製造設備の需要はもうちょっと時間がかかるのかなと。自分たちとしてはこの下期の中頃ぐらいから戻ればいいのかと見ております。先ほど説明があった一時的っていうのは、厚板全般として、お客様のほうで在庫が少しへこみ、その調整があったのがこの1クォーターにあったという形で、一時的に増えている。ただし、本格的な回復は下期以降かと考えている状況です。

田中 [A]：あともう1点だけ補足すると、7月から地金価格が上がっています。一部、前倒しでご注文されたお客様もあって、少しこの辺は入り繰りが混在しているというところもございます。

白川 [Q]：ありがとうございます。フォローアップですけども、1点目のところで、北米なんですけれども、そうすると、へこむと思っていたところがあまりへこまなかった。要は一過的な需要が4Qあったところで、開けてみたら需要が旺盛で、かつそれを補うだけTAAで間に合わないの、タイからの出荷をしていたっていうぐらい強かったと思うんですけども。

そうすると、TAAが今回の見通しの中では業績変更していない。YoYで見ると50億円の減益になっているんですけど、これはちょっと保守的なところがあるのか。それともまだちょっと落ちてしまうようなリスクを見たほうがいいのか、教えてください。

川島 [A]：UATH材のアメリカについては、UATHからTAAに販売し、TAAから外部に販売しています。従って、UATH材をアメリカで販売する分については、UATHで利益が出る分があります。

白川 [M]：分かりました。了解です。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は野村証券株式会社、松本様、よろしく願いいたします。ご質問ください。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしくお願いいたします。

1点目はUATHの北米向けの輸出というのは、例えば今年度いっぱいずっと継続するというふうにお考えなのかということと、あと北米以外の販売環境はどんな感じなのかを教えてください。

それから、決算とは関係がないんですけども、6月の株主総会の取締役の選任の賛成率が、社長、会長は去年は99%だったんですけど、今年いきなり80%に落ちていまして、業績が好調の中でこういうふうになっている何か、どういうふうを考えているかということと、何か問題意識としてはどういうふうにお考えかを教えてください。以上です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



川島 [A]：じゃあまた川島から。アメリカのマーケットについては弱くないと思っています。それからあわせて、UATH からの北米向けは 6 月だけじゃなくて、年内はある程度続くと思っております。そのベースで今回の見通しの数字を入れております。

それからもう 1 点、賛成率のところについては、なかなか各投資家の方たちの判断が、ぴったしこれだっていうのがなかなか分からないので、ちょっと何とも答えようがないんですけども。他方で、いくつかの機関投資家の方からは、PBR の問題とか、社外役員とか、配当とか、いろんなことがあって、その中でちょっと合致しないという形で 80% だったというふうに解釈しています。もう少し株価を上げるとか、配当出すとか、来年は良い賛成率をいただけるんじゃないかなというふうには考えております。

松本 [Q]：UATH のところで北米以外の需要環境ってどんな感じですか。

川島 [A]：UATH は元々東南アジア、オセアニア、中東をターゲットにした工場がございまして、今回アメリカがいいんですけども、元々東南アジアに向けてももう去年ぐらいからずいぶんと活動してきました。状況としては、お客様と長期契約が進んできているということでございます。ただし、中国の景気が少し弱いということで、中国材が東南アジアに一部流れてきているということで、本当は複数年で契約したかったところが単年度になっているケースもあるということで、厳しいかと言われると、厳しくなくはないという状況で。

隈元 [A]：ローガンのエキスパンションの影響もあります。

川島 [A]：そうですね、そういうのもあって、従って、うちの全体としては、東南アジアの UATH の状況については、ちょうど契約の更新の時期に来ています。値上げをするとか、それからエネルギー代等の転嫁のお願いをするとか、そういうことは予定通り進んでいます。

松本 [Q]：分かりました。ありがとうございました。

川島 [A]：北米ですね、あと。補足することありますか。

隈元 [A]：UATH の北米向けがどこまで続くかということですがけれども、北米の好調は、やはりしばらく続くと思います。ただ、どういうサプライミックスにするのかというのは、一方でローガンのエキスパンションもしておりますので、それなかりせば、おそらくずっと UATH からは続けて持っていくということになると思うんですけども。26 年の頭から拡張の成果が出てきますので、25 年いっぱいぐらいは続くんだらうなというのが今のところのもくろみでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



その間、足元のアジア、オセアニア、西のほうでいきますと中東、南アフリカのほうまでマーケティングをしております、実際に数量が増えてきているというようなところ。今後も販売先をしっかりと拡大していくように取り組んでいかないとはいけません。

松本 [M]：よく分かりました。ありがとうございました。

田中 [A]：田中でございます。先ほど賛成票がいただけなかったということで、私のことではございません。私のほうから一言だけ。残念ながら 80%という賛成票でございましたが、ある株主様からは、実は私ども取締役が社外の方が半数になっておるんですけども、賛成基準として過半数ということと、もう一つは PBR が 1 倍ということが賛成票に対する彼らの必要条件であるということも伺っておりますので、そういったところを来年度以降課題として取り上げながらやっていきたいと考えております。

松本 [Q]：ありがとうございました。よく分かりました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。では、次のご質問者です。大和証券株式会社、尾崎様、ご質問をお願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。よろしく申し上げます。

7 ページ目の利益の増減要因を見ながらなんですけれども、お話伺っていると、数量の回復が一番効いているっていうふうに分かるんですけども、この要因、利益の増減を数量と価格というかスプレッドとかに分けると、こういったイメージになるのかを教えてくださいませんか。

確か数量が 3 万 5,000 トンぐらい増えていきますので、それによる増益効果がどれくらいだったのかを把握したいという趣旨での質問です。あわせてですけれども、その他のマイナス 16 っていうのが、これは何でしょうかっていうのを教えてください。

2 点目が、1Q の業績が大変好調で、仮にこのままいくとそれなりの利益とかキャッシュ・フローも出てくるとしたときに、稼いだキャッシュを何に使っていくのかっていうところです。何か考えはありますか。普通に借入金の返済に充当していくのかとか、あるいは大株主さんが株式を売却していますので、そこの自社株買いとして充当していくとか、何か仮にキャッシュが余ったときの使い道を、どういう考えを持たれているか教えてください。以上 2 点です。

川島 [A]：川島からです。前年同期比で、国内の 24 億の販売差プラスに効いておるんですけども、ひとつ大きな理由は、品種構成です。先ほども申しましたように、1 クォーターはアルミの缶材が大変多く出ました。需要期と、それから当社が納める商品が実際に売れているということが大きいです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



24億のプラスのうち、10億ぐらいは数量差と考えています。数量構成。残りの部分が、昨年以降価格改定していますので、その効果が取れたんだろうということ。という形で、この24億の利益を見ているということでもあります。すみません、24億のうち、大体20億弱がアルミの板の事業でございまして、このうちの半分ぐらいが数量で、半分ぐらいがマージンだというふうに大体分析をしているという状況です。

それから、同じページの「その他」のマイナス16億円ですが、連結決算の関係の未実現損益の会計処理によるものです。6月末の出荷分が一部グループ内にとどまっております、その調整です。これは7月以降、外部に売却しますので、逆に実現していきます。

それから、キャッシュ、言われているように余ってくれると大変嬉しいんですけども、ファーストクォーターは、利益は出ているんですけども、販売量が増えてきている。それから地金価格が増えているってことで、実は運転資金でずいぶん使っており、フリーキャッシュ・フローはマイナスでした。年間はどうかという、地金価格は横ばいで見えており、販売数量が増えていくので、運転資金の増加が出てくるだろうと。

できるだけキャッシュコンバージョンサイクルで、自分たちが運転資金の抑制を図っておりますけれども、ある程度出るというふうに考えております。配当として、自分たちはまず出てきたキャッシュ・フローの中から配当します。まだまだ財務体質的には強くないこともありますので、これは有利子負債の圧縮、もしくは設備投資、減価償却を同額に見ていますので、自分たちは将来に向けた企業価値を上げる機会がいっぱいあると考えて中計を作っていますので、そちらのほうに資金を使っていくのではないかなと考えております。

尾崎 [Q]：ありがとうございます。販売関係差24億円うちの10億円ぐらいが数量構成で、残りが・・・。

川島 [A]：24億円のうち、大体20億円ぐらいが板事業で、そのうちの半分が数量構成で半分がマージンだと考えてください。

尾崎 [Q]：そういうことですね。分かりました。UATHとかTAAも、大体は数量が増えたことが大きいんですかね、ここも。

川島 [A]：UATHで19億円好転していますけども、そのうちの販売関係は10億円ぐらいで見えています。そのうちの大きいのは販売数量が増えているってことですね。それから一部、ドルとパーツ為替の好転が含まれています。それと、円換算の為替差のプラスがありました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それから TAA につきましては、販売数量がプラスなんですけども、物価連動の調整が 1 年遅れ販売価格にで入っており、それがマイナスに効いています。TAA 自身の販売は好調ですけども、販売差って形で見ると、前年比で若干マイナスとなります。

尾崎 [M]：ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。それでは次のご質問者は、UBS 証券株式会社、五老様です。ご質問をお願いいたします。

五老 [M]：UBS 証券の五老です。お世話になっております。

川島 [M]：お願いします。

五老 [Q]：2 点よろしく申し上げます。1 点目は TAA の業績、通期予想の考え方の再整理です。TAA は中計において 4 年間でマイナス 65 というふうに置いていて、そのほとんどが今期実現するマイナス 50 という見方になっているかと思えます。

ご説明の中では、北米の在庫調整が進んだことで数量的には改善していますよと。ただ、業績予想の今回の修正には、TAA の見方は今回の予想マイナス 50 で期初の予想と変わっていないと。マージン、スプレッドのところ、期ずれの問題というご説明はあったんですけども、実際第 1 四半期実績は前年比ではしっかりプラス 10 億円の貢献となっているかと思えます。マージン悪化が結局中計の間残ってしまうような形ですが、今後取り戻す余地はないのでしょうか。

期ずれということであれば、今後後半来期にかけてはプラス要因として出てくることで、中計自体の数字にも私たちの期待にも関わってくるところだと思うので、このマイナス 50 で据え置いている背景をもう一度確認させてくださいというのが 1 点目です。ある意味バッファーになっているという要素もあるのかもしれないんですけども、この辺りは解説ぜひいただけたらと思います。

2 点目は今まさにキャッシュ・フローの回答をいただいた部分で、配当を今回 140 円に上げました。配当性向ですというご説明ですけども、今回、配当性向を引き上げる背景として、資本コスト低下をある意味ツールとして考えているというご説明が御社の特徴だと思います。この点、為替とか事業環境等外部環境が大きく変わっている中なので、単なる数値としては今後も事業利益といえども変わりうると。事業利益には為替のような要素も入ってきてしまうので、変わりうると。

その際、資本コストを下げるためということであれば、この数字に対してどうコミットするのかということも大事だと思います。例えば、今年度この 140 円についてはコミットと考えていいのか。あるいは中計ではさらに上を目指すという目線にはなっていると思いますので、この辺り、出

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



した数字と配当性向をシンプルに適用するか否かというところについても一段踏み込んだ解説をお願いします。以上2点よろしくお願いします。

川島 [A]：これも川島からお答えします。まずTAAですけども、2023年度と比較して落ちるっていうよりか、2023年度が良かったんです。まず販売数量については、先ほど隈元さんからありましたように、今、増産投資をしています。これはちょうど中計が終わるあたりから増えます。

他方で、何が悪いかというと、原材料ですね。地金以外のスクラップ価格がずいぶん上がってきていると。それによって利益が少し食われてしまうという見方をしています。

それが下期以降続くだろうと見ておりますので、現実問題として足元は価格が上がってきており、この金額で見込んでいます。一方で需要は強いですから、需要が落ちることによってマイナスになるということではないと考えています。

それから配当ですね。これは中計の中でずいぶん社内で議論しました。当社は最終利益に対して30%以上を配当するという方針をつくっております。従って、今回の1株当たり140円の配当によって33%の配当性向というのは、マーケットに対してということもありますが、方針に従っているというふうに考えてください。

需要は強いですし、EBITDAを800億円から1,000億円にする道筋については何も変わってない。従って、今回の配当を上げることが一時的ではなくて、将来を見据えたときに、ちょうど一里塚っていうかベンチマークの一つだと考えています。

それが株主とマーケットに対する自分たちの損益の見方の表れであり、それから還元することによって、株価を上げることによる資本コストを下げていくというところにつながってくるだろうというふうに考えて、今回は100円を140円に変えたということでございます。

五老 [M]：よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。ちょうどお時間になりましたところでご質問ご希望の方がいらっしゃらないようですので、質疑応答を終了とさせていただきます。

今後のお問合せにつきましては、IR部までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社UACJ、2024年度第1四半期決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただきましてありがとうございました。

話者 [M]：ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



上田 [M]：今後も株主を初めとするステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう、邁進してまいりますので、引き続き弊社をご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

